

21世紀COE シンポジウム報告書

理学研究科 忍久保 洋

名 称：第1回京都大学有機化学系COE合同シンポジウム

「精密有機合成の多様性と展望」

世話人：京都大学大学院理学研究科化学専攻（斉藤COE）忍久保 洋

京都大学大学院工学研究科材料化学専攻（小久見COE）清水 正毅

場 所：北部キャンパス理学研究科2号館第1講義室

日 時：2006年7月11日（火）10:00～17:40

参 加 者：大学院学生、学生、博士研究員、教員

参加者総数：60名

シンポジウム内容：演者と演題は以下の通りである。

依光英樹（京大院工）レトロアシル化を利用した不安定 σ アリル金属化合物の立体
および位置特異的発生とその利用

植村卓史（京大院工）金属錯体ナノ空間内での高分子合成

加納太一（京大院理）有機分子触媒としての新規デザイン型軸不斉アミンの開発

若宮淳志（名大院理）機能性有機ホウ素 π 電子系の創出：ホウ素の特性に基づく分
子設計

森崎泰弘（京大院工）次世代共役系の探索ーカナダ・アルバータ大学遊学記ー

高谷光（阪大院基礎工）メタル化ペプチドを用いる金属の精密集積制御

三浦智也（京大院工）ロジウム触媒による連続的炭素－炭素結合生成反応の開発

金井求（東大院薬）不斉四置換炭素の触媒的不斉構築法の開拓と展開

本シンポジウムは京都大学化学系の2つのCOE、すなわち京都大学化学連携研究
教育拠点（斉藤COE）および学域統合による新材料科学の研究教育拠点（小久見
COE）間の連携を深めつつ、精密有機合成の様々な局面について討論することを

目的に企画された。2つのCOEに所属している研究グループの他、名古屋大学、大阪大学、および東京大学から、第一線で活躍する若手の講師を招き、単なる研究成果だけでなく、どのように考えながら研究を進めているかについても率直にお話し頂いた。有機化学の様々な分野の話題が提供され、精密有機合成の多方面への広がりを感じることができた。また、各講師が若手であるため、学生諸君とも年齢が近く、近い将来研究者を目指す学生にとって多いに刺激になったようである。各講演の後、活発な質疑がなされ、学術面のみならず教育面においても有意義なシンポジウムとなった。

